

報道関係者 各位

やまがたの若者向け地域活動情報紙「WA-CHA」（わちや）Vol. 6の発行について

県では、「若者支援コンシェルジュ」を設置し、地域でチャレンジする若者の活動へのアドバイスやサポートを行っています。

このたび、同コンシェルジュ事業の一環で、やまがたの若者向け地域活動情報紙「WA-CHA」Vol. 6を発行しました。当冊子は、若者自身の活動への意欲を高めるとともに、若者の活躍を応援する機運醸成を図るため、地域において意欲的に活動する方々の紹介や若者活躍の支援情報等について紹介するもので、令和4年度から発行しております。

つきましては、広く県民の皆様へ周知いただくようお願ひいたします。

記

1 内容

- 地域で意欲的に活動する若者への取材（2団体）
- 若者支援コンシェルジュで実施した若者向け地域活動交流会
- 山形いまだき若者アンケート2025集計結果
- 若者支援コンシェルジュのご紹介 など

2 配布先

県庁、各総合支庁、各市町村、図書館、公民館等

※ この他、若者支援コンシェルジュが運営する山形若者交流ネットワークサイト「やまカツ！」内でも閲覧が可能です。「WA-CHA」のバックナンバーのほか、地域で活躍する若者の活動の情報なども掲載されています。URL：<https://yama-katsu.jp/wacha>

3 その他

- ・「WA-CHA」とは、「輪になってチャレンジ！みんなでわちやわちやしよう」という意味が込められています。
- ・「若者支援コンシェルジュ」とは、地域活動にチャレンジする若者たちをサポートするための総合相談窓口です。
- ・「若者サポーター」とは、若者の地域活動を応援するため、相談内容に応じた現地指導等を行う方で、現在42名の若者サポーターが登録されています。

SUSTAINABLE GOALS
DEVELOPMENT

【問合せ先】多様性・女性若者活躍課

担当：課長補佐（総括・青少年若者支援担当）三浦
電話：023-630-2674
広報監：しあわせ子育て応援部次長 金丸

WA-CHA

わちゃ

Vol. 6

2025年11月発行



特集

地域を楽しむ、活動でつながる

取材 学生団体 Connect & 学生団体おでこ BASE

地域活動をする仲間を見つけよう！

やまカツ！Meet up～地域活動交流会のご紹介～

山形いまだき若者アンケート2025集計結果発表！

若者支援コンシェルジュのご紹介



若者向けの元気応援窓口

若者支援コンシェルジュ



山形県に在住またはゆかりのある若者の地域活動を応援する事業です。
一人でも多くの人と課題を共有することで、解決の糸口が見つかる可能性が広がります。

なんでも相談窓口

地域活動に関するご相談や、お問い合わせを受け付けています！

まずは相談してみよう！



080-4732-3804

(受付時間：平日 9:00～19:00)

SNS・WEB サイトのお問い合わせからも受け付けています。



@ wakamonoshien

若者支援コンシェルジュ
公式 LINE 配信中！



地域活動交流会



やまカツ! Meetup

Community Activities Exchange Meeting

地域で活動する若者向けの交流会を開催しています。令和7年度は5回の開催を予定し、11月までに3回開催しました。各回、テーマに沿ったゲストを招き、ざっくばらんに互いの悩みや夢を語り合っています。
→ P.8, 9で詳しく取り上げています。

若者サポーター

活動へのアドバイスや、技術的なサポート・レクチャーなど
「ちょっとだけ先輩」の若者サポーターがあなたを応援します。

実施
期間

令和8年3月31日まで

(受付終了は3月10日) ※予定数になり次第終了となります。

利用
対象

- ・山形県内で地域を元気にするための活動をしている
(これから始めようとする)高校生～40歳位の団体または個人
- ・山形県内へ移住を検討している40歳位までの個人
- ・山形県内の教育機関(サポート受益者が高校生～40歳位であること)

SUPPORT MENU

- ▶団体・NPOの基盤整備、運営
- ▶パソコン活用
- ▶会計・経理
- ▶WEB活用
- ▶起業ノウハウ
- ▶イベントの企画・実施
- ▶広報、マスコミ周知
- ▶事業の企画、実施
- ▶その他

メニューにない内容でもまずはご相談ください！



情報発信

やまがた若者交流
ネットワークサイト

<https://yama-katsu.jp/>

やまカツ!

地域活動に役立つ情報や、県内で活躍する若者の情報を
発信中！県内の様々なイベント情報や支援制度情報も
あるので、ぜひブックマークを！

やまカツ！TOP

イベント情報

各市町村の支援制度情報



特集

地域を楽しむ、 活動でつながる

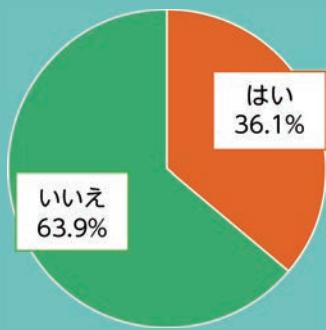


学生団体 Connect

令和7年度「山形いまだき若者アンケート」の結果では、「地域活動をしている」人は36.1%でした。地域活動は、地域を元気にするだけでなく、人や地域とのつながりや毎日の生活に楽しさをプラスしてくれるもの。今回は、高校生、大学生が中心となって地域活動に取り組んでいる2団体に取材し、地域とかかわる魅力を聞きました。

山形いまだき若者アンケート 2025 調べ

あなたは地域活動をしていますか？



人との
つながり
82.6%

活動で得たものは？

地域との
つながり
62.0%

心の豊かさ
充実感
40.5%

情報・知識
50.4%





探究学習のその先へ 楽しく学べるきっかけ作り

学生団体 Connect

「探究学習の楽しさ・おもしろさを、学校の枠を超えて伝えたい！」そんな高校生の想いから、学生団体「Connect」がスタートしました。高校生代表の伊藤みやびさんへのインタビューと、10月に開催したイベントの様子をご紹介します。

Connectとは？



高校生代表
伊藤みやびさん

私は山形中央高校で、文理科学部（探究活動を行う部活動）に所属しています。一年生の時には、山寺をフィールドにお土産の開発や「山寺ゲームブック」の製作などに取り組みました。探究を通して、社会とつながる楽しさや難しさ、そしてそれを乗り越えた先にある達成感に大きなやりがいを感じました。しかし一方で、周囲の生徒からは「めんどくさい」「やる意味あるの？」といったマイナスな言葉を耳にすることも多く、探究に対する姿勢の違いに大きなギャップを感じました。また、部活動では通常、活動期間が二年半に限られており、限られた時間の中ではできることにも限界があります。

そこで、少しでも多くの人と探究のおもしろさを分かち合いたいと思い、高校生団体「Connect」を立ち上げました。現在は私たち高校生のほか、大学生や社会人も一緒に活動しています。

社会とつながる楽しさや難しさ、そしてそれを乗り越えた先にある達成感に大きなやりがいを感じました。しかし一方で、周囲の生徒からは「めんどくさい」「やる意味あるの？」といったマイナスな言葉を耳にすることも多く、探究に対する姿勢の違いに大きなギャップを感じました。また、部活動では通常、活動期間が二年半に限られており、限られた時間の中ではできることにも限界があります。

まずは、私たち自身が「楽しみ」ながら探究に取り組み、周りを「楽しませる」活動にしていきたいと思っています。さ

（つづき）高校生だからこそ聞ける学生のリアルな悩みや、地域の声をキャッチできる団体を目指しています。他校の生徒と関わるきっかけにもなればと思いますので、興味のある方、一緒に探究を楽しみましょう！

つなぐ・むすぶ・接続する



▲山寺でのフィールドワークで作製したゲームブックや地元企業とのコラボ商品



学生団体 Connect

高校生代表：伊藤みやび

大学生代表：高子結衣

メンバー数：10名

高校生から20代まで活動中！

イベント参加や加入希望などの

お問い合わせはInstagramから

https://www.instagram.com/tk.connect_27/



～10月26日開催～

まちばふえものがたり in なのかまち



団体として初めてのイベントは、「まちばふえものがたり in なのかまち」。山形市七日町をステージに、いろいろなお店から食材を購入して、世界にひとつの「○○な自分にあげたいパフェ」を作るミッションです。

参加者は、高校生12名と、学生スタッフ10名です。まずは班に分かれ七日町散策をスタート！ 気になつたお店に立ち寄ると、旬の食材や、扱っている商品の魅力、パフェにおすすめの菓子などを教えてもらいましたが、予算内で食材を買い求めました。



令和7年度山形県若者がつなぐ・つながる地域おこし推進事業費補助金を活用しました。

その後は、レストランのキッチンに会場を移し、パフェ作りです。シャインマスカットやラ・フランス、オレンジなどのフルーツに加え、ドーナツ、チーズケーキ、コーヒーゼリー、わらび餅など、思い思いの食材を器にのせた参加者たち。盛り付け方も工夫し、どうすれば食材が映えるか吟味します。完成したパフェは、その見た目も「ンセブトも唯一無一！」美味しい仕上がりました。



参加者から一言！

お菓子屋の店員さんにパフェに入れるおすすめを聞いて、あんチーズケーキとカボチャのチーズケーキを買いました。どちらもおいしかったです。

他校の学生とかかわることがないので、こういう機会はうれしいです。

オーガニックな食材をたくさん売っているお店を見つけました！

おいしー！ たのしー！



実は今回のイベントは、一日で探究のプロセスを体験できるプログラムとなっていました！（どんなパフェにしようか考える（問い合わせ）→フィールドワーク→パフェづくり→発表）。集まつた高校生は純粋にプログラムを楽しんでいたところ、実は自然と探究のプロセスをたどっていたというネタはらしを聞いて、気付きが少しでもあつたのではないかと思います。探究に対し、最初は小難しいイメージがあると思いますが、そついた方に、探究の楽しさを自然と感じてもらえるような活動を続けていきたいです。

これからも、高校生・大人・地域がつながることができる仕掛けを施したイベントを開催したいと思っていますので、少しでも興味を持つてくださいると嬉しいです！高校生のみなさん、ぜひチェックしてくださいね！



次回イベントは

2026年

1月

を予定！

詳しくはInstagramを
チェック！

開催してみて

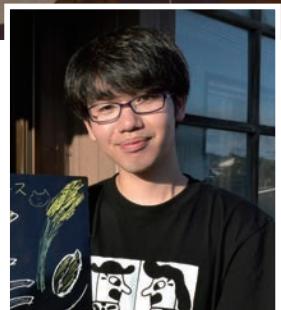




自分らしく在れる 遊佐駅前の秘密基地

学生団体おでこBASE

庄内地域を見守る鳥海山の麓、遊佐町。人口約1万2千人のこの町に、活気あふれる若者の「秘密基地」があります。運営するのは、学生団体おでこBASE。代表の安藤希祥さんにお話をお聴きしました。



おでこBASE代表
安藤 希祥 さん

おでこBASEとは?

おでこBASEは、令和6年3月から、中高生の居場所を運営している学生団体です。学校帰りにちょっとと集まれてゆっくりできる場所とか、地域の大人とゆるく話ができるような空間をイメージしています。何かをしなきゃいけないということもないし、利用料もありません。

今は週3回、夕方の16時から18時まで開けていますが、多い時には20人から25人くらい来る時もあります。ここのいる地域の方々からイベントのお誘いなどもあるので、そういうことに興味がある中高生とのマッチングができる、地域に出ていく拠点にもなっています。

おでこBASEを作るまで

私は名古屋市出身で、令和2年に遊佐高校に入学しました。卒業後は東北公益文科大学に進学し、現在3年生です。もともと私はすこし消極的なタイプ

で、本当に「元気がなくて勉強もしない」という感じでした。今は「嘘でしょ」と言われますが、本當です(笑)。何に對しても魅力を感じなかったんですね。人のやさしさを感じる機会も少なかつたです、何かしたいと思つてもなかなか難しく、ルールに縛られてしまつのが面倒くさがつたのかもしれません。

高校進学を考える時期で、さすがに心配した家族が、学校からもひつてきたり地域みらい留学説明会の案内を偶然見つけて「これいいんじゃない?」と。それで説明会に連れていかれました。

説明を受けてみると、意外と魅力を感じやつたんですよ。自分が全く触れこなかったまろづくりとか、自然とか。決め手は遊佐高校の寮がWi-Fi・個室完備ということでした。それで、地域みらい留学制度一期生として入学しました。



学生団体おでこBASE

代表: 安藤希祥

所在地: 山形県飽海郡遊佐町遊佐字石田 32-1

運営日: 週3回 16:00 ~ 18:00 (不定休)

<https://odecobase.hp.peraichi.com/top/>

https://www.instagram.com/odeco_base

WEB
サイト





おで、JIA-SEの居場所づくりが始まつて4か月が経った頃、記録的な大雨災害がありました。その時、友人の家が被災して肩の高さまで浸水し、車も家具・家電も全滅という

大雨災害ボランティア

寮生活が、ついでJBAの原体験になつた
と思ひます。

ある時、「若者」として遊佐町の足りない
ものはなんぞや?」といつて話を始めた会議
があつたのですが、その中で「居場所が足り
ない」とか「滞在する場所がない」という声
がありました。それを受けけて「居場所つくつ
をしめつ」とつづけ語になりました。それが「お
で」JBAの由の始まりです。

人と一緒に3年間過ごしたのですが、その人が生活を学びに来えてくれました。自分がする」と面白がってくれたり、失敗や挫折を笑って人に話せる状態にしてくれたり。すこし心を満たされたんです。その人と過ごした寮生活が、おでJ-BASEの原体験になったと思います。

状態になりました。心配になつて知人と現地に行つたら、もう想像以上でとてもショックを受けたんです。自分に何かできないかなと思って、県外の学生にも声をかけて数人で行つたのがボランティアの始まりです。

たくあん生できて、ボランティア保険に加入して活動するようになりました。活動用の「ENEグループ」は最大88人が登録し、活動人数は一日間で延べ300人になりました。被災された人は果然どうか、何から始めたりいいのかわからないといった感じで、どうりとした空氣だったんですが、高校生が明るくお手伝いをして被災された方と「ヨニケーション」をとると、少しずつその場の空氣も明るくなつて、いつのまにか氣がします。

本気で向き合ってくれる大人がいる

遊佐町)」など、いい意味でムカつかせてくれた大人の存在があります。何でも応援してくれて「いいね」と肯定から入ってくれるけど、心の中にモヤモヤがある時は正面から向き合って対話をしてくれます。「気にしてるでしょ」なんて言われると腰が立ちますが、図星でしかないから自分で向き合わなきゃいけないこと気がかせてくれるんです。高校生活には、そういう「ムカつかせてくれる大人」が必要です。

チャレンジと失敗と成長。そういう機会を生む場所として、おでこBASEがいい意味

やつて、おおむね田舎の風情へいたゞ
い。一緒に話すのが好き。

これから何かをしたい人へ

私は今大学3年生ですか卒業しても、ここで居場所づくりに関わり続けたいと思っています。

で訪れた方々に刺激を与えたからと思つていい
ます。



▲「若者がつなぐ・つながる地域おこし推進事業」とコラボして、商店街イベントに共催として携わりました。

参加者から一言！

横浜市出身 遊佐高校 1年
メイ さん(左)



遊佐町出身 遊佐高校 1年
ルナ さん (右)

おでこB A S E は部活の活動で使っていますが、学校とは違う友だちの一面を知ることができたり、先輩との距離を縮められたり、県外から来た人と出会えたりして、すごく楽しいです。もう住みたいくらい好きです！

遊佐町は最初のイメージ通り自然が豊かで、いろんな所に湧水や川があって、めっちゃ気に入っています。それに、やりたいことを全力で応援してくれる人、優しい人が多いです。おでこB A S E は、他愛もない話とか学校の様子とかを話せる「第三の居場所」です！

地域活動をする仲間を見つけよう！



やまカツ！Meetup

Community Activities Exchange Meeting



～地域活動交流会のご紹介～

若者支援コンシェルジュでは、地域で活動する若者向けの交流会を開催しています。

令和7年度は5回の開催を予定し、11月までに3回が終了しました。各回ゲストによるトークや、参加者同士の交流など、学びと出会いの場になっています。



01

第1回地域活動交流会

HAJIMERU

あなたのアクションで何かが変わる！地域活動の始め方

6/21開催。ゲストは、「Fiesta」コワーキングスペース管理人の角田歩さんと、元河北町地域おこし協力隊でそよかぜ代表の菊地航平さんです。

「地域とかかわる」ということ

お二人が地域活動を行っていて気づいた共通点が「コミュニケーションと信頼の大切さ」でした。地域とかかわるということは、人とかかわるということ。「地域に戻ってきて欲しい世代、関わって欲しい世代って誰？というのを考えて行動しています」と角田さん。「『あの人はいつもこの地域のために働いてくれているね』と地域の人に認識してもらうことが信頼へつながり、求められることにつながる」と菊地さんも応じていました。

みんな仲良くなったよ



はじめは小規模でも

何かを始めたいと思った時、「大きな理想はいらぬい」、「個人的な動機からのスタートでいい」。小さく始めて、少しずつ仲間を集めていく。「私もまずは3人、次に10人と増やしていきました」と菊地さん。始めることそのものが重要なんだと、改めて気付かされた交流会でした。



まとめ記事

参加申込
受付中

第4回地域活動交流会



法人化実践者に聞く！
活動の育て方・広げ方

令和7年12/6(土) 14:00～16:00

@やまがたクリエイティブセンターQ1

「活動を育てる」をテーマに、法人化実践者をお招きして、団体活動のその先を話し合います。ゲストは、一般社団法人アートライズ・ソーシャルワークハウスこむぎ 理事・管理者兼相談支援専門員の菅原一美さんと、特定非営利活動法人 cocotomo 代表の大泉まりさんです。

詳細はこちら



第5回地域活動交流会

活動を継続するために押さえておきたい
会計業務と補助金活用

令和8年2/7(土) 14:00～16:00

@山形市内

「続ける」をテーマに、活動継続のコツや継続に欠かせない資金面について話し合います。ゲストは一般社団法人希望活動醸成機構・代表理事の阪野正義さんと、NPO法人やまがた市民活動サポート代表の石山由美子さんです。

詳細は後日告知予定です。



02

第2回地域活動交流会

FUYASU

みんなどうしてる？仲間づくり・応援者づくり！

8/23開催。ゲストは、株式会社ローカル・インキュベート代表取締役の末永玲於さんと、エンター合同会社代表の山川唯美さんです。



目的の違いによって異なる仲間づくり

末永さんは、山形に移住して始めた起業支援やチャレンジキッチンをきっかけに、地域とかかわりながら事業を展開しています。仲間づくりは、非営利活動では「価値観の共有」で、営利活動では「価値の等価交換」がポイント。「相手が喜んでくれることも仲間づくりにつながる」とお話をくださいました。



気になる人には声をかける

山川さんは、育休中にSNS上で悩みをシェアしたことが仲間づくりのきっかけになったそうです。山川さんは「この人と何かしたい」、「この人が気になる」と思ったらまず連絡することが、ご縁に繋がっている」と話します。そのため、「自分も声をかけられる人になっているか」を自問するようにしているそうです。



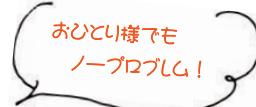
まとめ記事

03

第3回地域活動交流会

TENKAI

地域活動おしゃべり芋煮会



10/25開催。ゲストは、FURUSATOの未来代表の伊藤一之さんと、山形 Make Lemonade プロジェクトリーダーの平田寧々さんです。今回は山形の秋の風物詩の芋煮を、芋煮コンシェルジュである伊藤さんに作っていただき、参加者みんなで味わいました。



歴史からひも解く芋煮会

芋煮の歴史を口伝、文献、文化財からひも解き、昔ながらの棒鱈を使った芋煮をよみがえらせた『北前いも煮』。伊藤さんはPRに力を注ぎ、今では中山町以外でも北前芋煮を広める企画が増えてきたそうです。「熱量で人が動いている。歴史や文化の裏付けがうさせているのかもしれない」と話されていました。



レモネードでつなぐ小児がん支援



平田さんは、ご自身が小児がんを経験したことから小児がん支援をしたいと願い、中学生の時にレモネードスタンドを始めました。しかし孤軍奮闘だったため、「ここなら私の話を聞いてくれるかも」と青年の家で行うボランティアサークル「nicoこえ」に入りました。現在は多くの人が賛同し、幅広く知られる活動となりました。「小児がん経験者にとって、あたたかな社会になること。そのためにはまずは知ってもらうことが大切」と話される姿が印象的でした。



まとめ記事

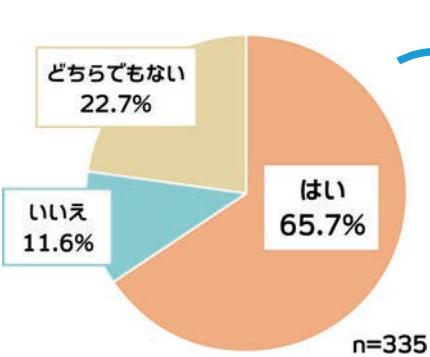
若者支援コンシェルジュでは、山形県に縁のある16歳～40歳位までの方を対象に、ウェブアンケートを実施しました（調査期間：令和7年7月15日～令和7年9月21日）。回答者数は、335人となり、さまざまな意見が寄せられました。アンケート結果より、一部を抜粋して掲載します。

回答者の属性



① 今住んでいる地域は好きですか？

全体では「はい」が65.7%であり、居住地域別に見ても顕著な差異はありませんでした。地域活動の有無別では「している」と答えた人のほうが「はい」の割合が高くなりました。



地域活動の有無で見ると

地域活動を
している
n=121

どちらでもない 17.4%
いいえ 9.9%

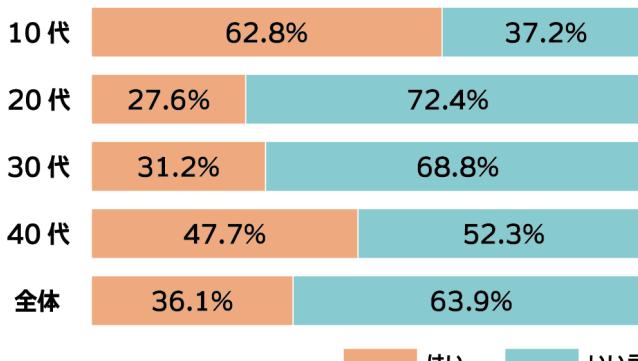
はい 72.7%

地域活動を
していない
n=214

どちらでもない 25.7%
いいえ 12.6%

はい 61.7%

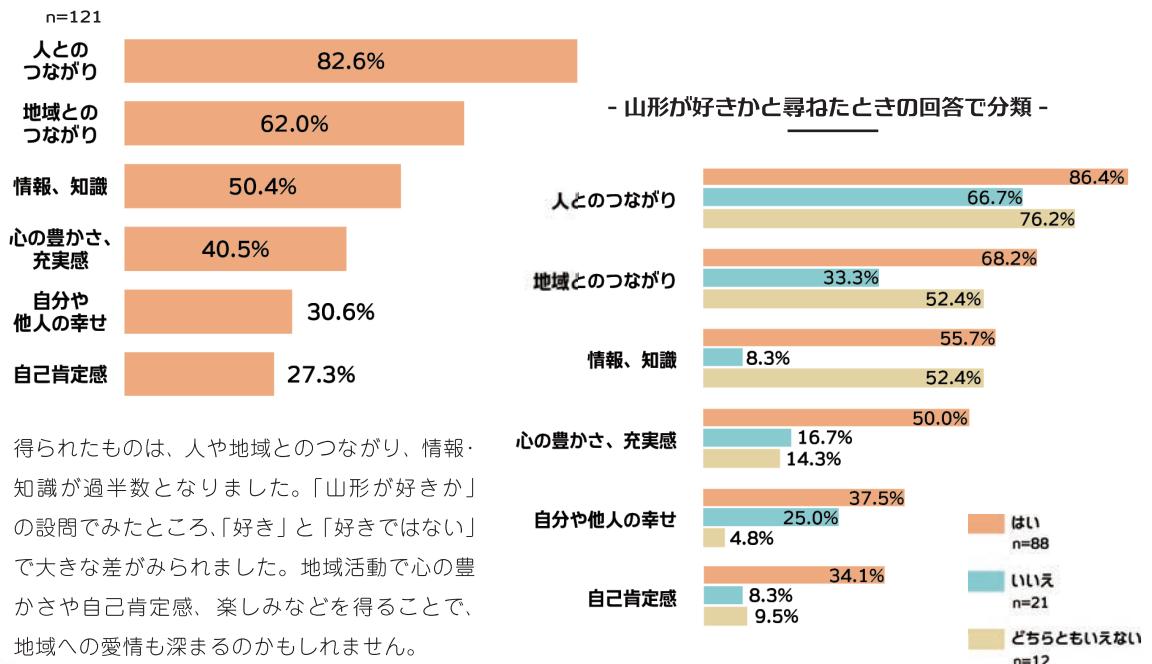
② 地域のための奉仕的な活動をしていますか？



「地域活動をしている」と回答した人は全体の4割弱でしたが、年代別にみると、10代は過半数が「している」と回答していました。



地域活動をして、あなたが得られたものは何だと思いますか？（上位6位）



地域活動をして感じたこと、伝えたいこと（要約）



アンケートの結果は、ウェブサイト「やまかつ！」にて公開しています。ぜひご覧ください。

地域を元気にする活動をしている、
これからしたいと考えている 若者のみなさんへ。
地域活動実践者がアドバイスやサポートをします。

完全無料

2時間×3回

オンライン可

～利用者の感想より～

いろんな人との出会い、会話が広がるプロジェクトだと思います！

地域活動や経営を志す若者には、すごく魅力的な制度で様々な学びを得ることができました！

個人で進めていく中で困った時に相談できる場があるというの大変ありがたく、心強いです。

若者サポート

若者向けの元気応援窓口
若者支援コンシェルジュ

3/10まで受付中



山形での多様なライフワークスタイル
やまがた KURASHi seeds



山形暮らしのロールモデルを紹介しています

Web記事 リール動画



山形で、ライフデザインの“種”を見つけよう

@yamagata_anone

やまがたの若者向け地域活動情報紙

WA-CHA

発行 令和7年11月

発行部数 3,000部

6号

【制作・発行】

若者支援コンシェルジュ事務局
〒990-0832 山形市城西町5-29-19
(AISOHO株式会社)

☎ 080-4732-3804

✉ conc@aisoho.jp

【委託元】

山形県しあわせ子育て応援部
多様性・女性若者活躍課



URL

が変更になりました

やまがた若者交流
ネットワークサイト

やまかつ！

new! <https://yama-katsu.jp/>



『編集後記』

▼「誰かのために何かしたい」という人が見ているものは、その先にある誰かの笑顔なんだと思います。それがあれば、大抵の疲れは吹き飛びます。

▼Connectさんを取材し、探究学習をきっかけに好きなものに気付く、やりがいを見つけることができるというのが、まぶしいなと思います。意欲的に活動する高校生、大学生の姿に元気をもらっています。(かいな)

▼高校・大学のうちから地域活動に興味を持つ方が以前より増えており、いまどきの学生のやる気に感心するばかり。そんな若者の力になれるよう、これからも事業の認知度向上に努めたいと思います。(のん)

▼「やまかつ！」を見てイベントに興味を持った訪れた、と言つて下さる方がいてとても嬉しいです。ささやかではありますか、出会いや繋がりの一端を担えるならば今後も良いイベントをご紹介していきたいです。(しばみ)

▼サポートや交流会に同席していて、参加者の方も含め、みなさんからのエナジーをとどめ感じました。活気ある場というのは、気持ちも前向きになり、やる気もアップ。もっと広まってほしいと願うばかりです。(おタピ)